

「原爆は非人道的絶対悪」 国際会議で被団協木戸さん

核禁会議もよう開幕

【ウィーン=共同】オーストリアの首都ウィーンで二十日、「核兵器の非人道性に関する国際会議」が開かれ、日本原水爆被害者団体協議会（被団協）の木戸季市事務局長（写）が「原爆は非人道的絶対悪」と速やかな廃絶を訴えた。核を史上初めて違法化した核兵器禁止条約の第一回締約国会議が二十一日に開幕するのを前に、被爆三世も放射線がもたらす恐怖を証言、禁止条約制定の原動力となつた核の非人道性を確認した。

長崎で被爆した木戸さんは会議に日本政府代表として参加した上で、日本が核禁止条約に署名・批准していないのは「国民の願いに反する」と強く批判した。長崎で被爆した祖母を持ち、核廃絶運動する国際会議 核兵器が与える破滅的影响について議論する会議。広範囲の放射線被害、負傷者救護が不可能になることなどの懸念が2010年の核拡散防止条約（NPT）再検討会議で表明されて以降、非人道性の議論が活発化。第3回には、米英が核保有五大国から初めて参加。日本は過去3回に統計、被爆者も政府代表団に迎えて今回も出席した。（共同）

に取り組む大学生中村涼香さん（三）も登壇し、核廃絶は「実現しないことは私たちにかかるいない」と述べ、被爆体験を継承する重要性を語った。

参加国数は公表されていないが、唯一の戦争被爆国である日本を含む七十カ国以上が参加したとみられる。

会議には、長崎県被爆者手帳友の会の朝長万左男会長（写）や松井一実広島市長と田上富久長崎市長も出席。オーストリアのシャレンベルク外相はじめテオ演説で、ウクライナに侵攻したロシアによる核の威嚇は「全く無責任で断じて受け入れられない」と非難。国連軍縮担当上級代表の中満泉事務次長らも演説した。核使用や核実験が人や環境に与える中長期的被爆、事故による核兵器の爆発のリスクなどについて各国の専門家が最新の研究に基づき議論する。

非人道性会議は、二〇一二年のノルウェー・オスロでの第一回以降、これまで二回開催。日本政府はいずれも出席してきた。市民団体や国連、赤十字国際委員会（ICRC）、核軍縮推進派の非核保有国が主導し、禁止条約の制定につなげた。核禁止条約には米国をはじめ核保有国が反発。日本政府は同条約には参加しておらず、締約国会議へのオブザーバー参加の見送りを決めた。